

## 第160回 青森県立図書館協議会 会議結果

### 1 日時・場所

平成30年12月6日（木） 13:30～15:00

青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館 4階 集会室

### 2 出席者

《協議会委員》 敬称略 9名

木村 文江          白木 佳乃          前田 敏子          須藤 紀子          斉藤 光政

瀧口 孝之          生島 美和          小笠原 秀樹          鈴木 麻理奈

欠席：玉川 玲子

《図書館》

山田 勝規（図書館長） 外10名

### 3 会議の概要

（1）図書館長あいさつ

（2）案件

① 短期行動指針（行動計画）等について

② その他

---

《お問い合わせ先》 青森県立図書館 企画支援課 電話 017-739-4211

---

## 委員の主な意見・要望等

### 案件（１） 短期行動指針（行動計画）について（H28～30までの取組）

#### ○委員

説明のあった八甲田雪中行軍のデジタルアーカイブの写真なんかは、アクセスが多かったのでは？特に県外から。自分の周りでも結構良いという話が多かった。これが出たことによって、八甲田のこんな写真もあるという話しも出て、歴史家の刺激になっている。

#### ○委員

当町の図書館には司書がいない。また、学校にも専門的な知識を持った司書の役割をする先生がいないため、本は並んでいるだけで子どもたちが手に取って読みたくなるような環境では無かった。

こんな中で県立図書館で行っている支援事業が非常に助かる。県立図書館の職員から助言を受けた当町のスタッフが、来年度は学校を回って学校図書館の充実に努めたいと思うようになってきた。今後もよろしくお願いしたい。

#### ■県立図書館

ありがたいお話。

県立図書館では、いずれ、小中学校に直接支援ということでは無く、市町村の図書館が学校図書館を支援するために我々が市町村の図書館を支援するという形に持っていきたいと考えている。

#### ○委員

平成２７年度以前は、短期行動指針はあったのか？

#### ■県立図書館

無い。

#### ○委員

独立した館が、このように自分たちの目標を立体的に示し、３年間どう取組んだか見える化できたことは、評価に値すると考える。

#### ○委員

平成２９年度取組実績で学校図書館シンポジウムの参加者数が出ているが、参加する時、学校はどのような感じで参加させるのか？ちゃんと関係ある人で無いと一生懸命シンポジウムを開催しても意味が無い。実際、どのような立場の人が参加しているのか、今年度の実績も併せて伺いたい。

## ■県立図書館

今年度の総参加者数は172人で、学校関係者が102人、学校関係者の内、校長先生は34人。この他に教育行政関係者が39人、公共図書館関係者23人、その他8人だった。

### ○議長

高等学校選出の委員もいる。委員も参加したと思うが、どういったいった感じで参加したか？

### ○委員

私は校務の都合で参加できなかった。開催時期と校務のタイミングが悪かった。

### ○議長

私も、授業の補助などで参加できなかった。泣く泣くあきらめた。

### ○委員

我々の図書館は予算が少ない現状にある。このため、県立図書館の市町村向けの協力用図書は非常に使いやすく、大いに活用している。また、奉仕課のディスプレイ応援団や禁帯出資料の貸出など凄く助かっている。

### ○委員

目標を設定し、わかりやすい形でどう近づいていくか上手く整理されている。説明の中で、支援という話しがあった。この中で「学校図書館アシストプラス」事業で五所川原高校が3年間相談しているが、内容を教えて欲しい。学校ではどのようなことに悩んでいるのか、どのような支援がされたのか？

## ■県立図書館

学校からは「本が一杯で入らない」、「本が古くてどうすればよいか」、「何を捨てていいかわからない。その後どうすればいいかわからない」という環境整備の相談がもの凄く多い。五所川原高校の場合もこれに近かった。分類が合っているか、使える本か否かを確認し、余裕を持って排架できるよう除籍のアドバイス等をした。

他に生徒たちとわかりやすい展示の仕方などについて意見交換した。

### ○委員

3年間の取組を聞いて市町村支援の必要性が分った。また、各市町村や学校が持っている貴重資料のアーカイブも必要になると思うので、県立図書館が資料のデジタルアーカイブ化にも積極的に取組んでいるので、先進事例として市町村にも応用できれば良いと感じた。

## 案件（１） 短期行動指針（行動計画）について（H31以降の取組）

### ○委員

1 3 頁笹森儀助の関連資料の利用頻度が高いとのことだが、こういった人が資料にアクセスしているか教えて欲しい。

### ■県立図書館

笹森儀助は奄美大島、先島諸島に赴任したり、あちこち探検している人。その業績について沖縄の研究者の方やこの島の研究者の方等、笹森儀助が足跡を残した地方からの問い合わせが非常に多い。こちらについては、以前マイクロフィルムを作成しているが解像度が低い。今回高解像度のデジタル化をして研究に役立ててもらいたい。

### ○委員

次に1 4 頁。平成2 8 年度からの取組で、北日本図書館大会で発表する1 地域1 館とはどこか？

### ■県立図書館

1 地域が五所川原圏域で五所川原市立図書館、つがる市立図書館、中泊町立図書館の3 館の取組を発表する予定。1 館は八戸市立図書館になる。

### ○委員

平成3 1 年度からの取組でもう二つ増やす計画だが目途みたいなのはるか。

### ■県立図書館

担当レベルでは、ここはどうかという考えはある。また、学校図書館支援ともう少しつながられないか考えている。学校図書館の支援を行いたい図書館と学校図書館を一緒に支援し、地域で元気になってもらうイメージで考えている。

### ○委員

資料1 6 頁。3 2 年度からの「くまきちと旅する文学館」の情報発信計画について、具体的にどこに行くという計画はあるか？

### ■県立図書館

具体的には決まっていないが、出張の機会に合わせて行こうと考えている。東京方面には行くと思う。

### ○委員

行動指針が定められて3 年間取組んだと言うことは大変素晴らしいと先程言った。次のスローガンが出るときに、どう展開していくか。スローガンが同じというのはちょっと。もちろん、これを深めていくということだと思うが、だとすれば、変えないにしても「もっと県民の近くへ」が「もっともっと県民の近くへ」になったとか、「見える化・使える化を進めよう」は「見える化・使える化が深まる」というようにミニマムチェ

ンジしていくと、前向きに展開していることが見えると思う。

それから、資料2頁の項目立てがアイウエオ立てになっているが、これは、123と突合と考えて良いか。

## ■県立図書館

そうである。

### ○委員

練られた計画が出ていると思うが敢えてコメントする。

市町村支援に関連して、今やっていることは非常に重要なこと。ただ、自分のこれまでの社会教育施設への関わりで見ると、社会教育施設に求められていることは、独自予算が削られているからこそ外部予算を持ってこいと言うこと。実際に国の機関の委員として何百件も見ていると、内容が優れているかでは無く、助成金の情報を持っているかどうかで資金を獲得するための一つの条件となる。

おそらく、自治体が様々な機関に情報提供していると思われる所からは申込みが凄くある。一方で情報を提供していない所からは全く来ないという状況が、審査していると分ってくる。

市町村の支援というのは、財政的な、資金をいかにして獲得するかという支援が新しく出てくるのではないか。もちろん、補助金等に振り回されてはダメなので、自分たちで目的をはっきり持って、これに見合った物を選択できるようになるとか、申請書の書き方なんかを支援して貰えとお互いが自立して活動できるのではないか。

あと、県立学校への支援について。特別支援学校はどうか？現場のことを知って言っているわけではないが、博物館とか図書館等の社会教育施設が、成人後にいかに使えるかということを知るきっかけが在学中に必要ではないか。障害を持っている方の成人後の余暇活動とかを支援する意味でも、学校教育段階で是非図書館等の活用ができるような学習の支援をして頂ければと思う。

近代文学館でSNSだからこそできることは、ネット上でのシェアだと思う。公共機関なので、制約はあるかもしれないが、例えば近代文学館で発信したことを図書館でシェアするとかまたはその逆。同じ施設にあるので、”見られればいがさる”わけです。

また、Facebookを見させてもらっているが、今こういうことやってますという情報も必要だが、来ればこんなことが分るという中身に関する情報がちょっとずつでも発信されると興味を持つ人がいるのではないか。

## ■県立図書館

学校図書館の支援について。学校図書館のサポートは、こちらのスタッフの兼ね合いもあり、全ての県立学校を回することは不可能なので、少しでも効果的な取組になるよう、学校図書館サポーター配置校を優先的に対応する事としている。来年度の配置校はまだ分らないが、今回の意見については教職員課の方に伝えたいと思う。

### ○委員

県立図書館だよりはどこまで配付されているか？これは本当に良い。レファレンス業務についての記事がとても面白い。図書館業務を知るのにとってもよい。みんなに読んで

欲しい。私はいつも感心している。

○委員

資料のデジタル化について。平成33年度に新システムに移行するとのことだが、できれば、市町村で持っているデジタルデータを載せられないかと思っている。当館の場合、所有しているデジタルデータを費用の関係で公開できず、DVDの形で貸し出している。

**案件（２） その他**

○議長

せっかくの機会なので、ご意見ご質問がありましたらどうぞ。

○委員

電話すると情報提供されるという事も大事だと思うが、図書館の場合はむしろ、電話しなくてもカンフル剂的に情報が発信されても良いのではと思う。

今日配付された図書館のアーカイブデータを利用したブックカバーだが、どうせなら、各々のはんこがいつ使われた物か知りたかった。そんな説明があった方がより関心を持って貰えると思う。

○委員

SNSの利活用について。図書館という場所は特殊だと考えている。知の宝庫である。やっていることだけではなく、もっと中身の部分を発信することを頑張ってもらいたいと思った。

資料に消しゴムはんこが載っている。消しゴムはんこをやっているという情報の他に、何故この素材を選んだか、何をした人なのかとか。